

翻訳：『ロークラインの悲劇』（1595 年）

第 1 幕、第 2 幕（全 5 幕）

高 谷 修
桑 山 智 成 訳

『ロークラインの悲劇』（*The Lamentable Tragedy of Locrine*）の戯曲テキストは 1595 年にトマス・クリード（Thomas Creede）によって四つ折り版（Quarto）で出版され、タイトル・ページでは「W. S. が確認し、訂正し、新たに準備した」作品として印刷された¹。その後、シェイクスピア戯曲全集である第 1 二つ折り版（First Folio, 1623 年）と第 2 二つ折り版（1632 年）には収録されなかったが、1664 年出版の第 3 二つ折り版に、『ペリクリーズ』（*Pericles*）や『ヨークシャーの悲劇』（*A Yorkshire Tragedy*）などの七作品と共に、新たに収録された²。W. S. がシェイクスピアを指すのか、別人を指すのか、あるいはシェイクスピアを連想させる販売上の戦略だったのか、定かではない。元の作

1 “Newly set fourth, overseene and corrected. By W. S.”

2 他の作品に、『サー・ジョン・オールドカースル』（*Sir John Oldcastle*）、『ロンドンの放蕩者』（*The London Prodigal*）、『ピューリタン』（*The Puritan*）、『トマス・ロード・クロムウェル』（*Thomas Lord Cromwell*）がある。これらの七作品は、1685 年出版の第 4 二つ折り版にも収録されている。なお、『ヨークシャーの悲劇』の本邦初訳は、『英文学評論』（京都大学大学院人間・環境学研究科英語部会）第 85 集（2013 年）pp. 25-60 に掲載した。

者（たち）が誰であったかも不明であり、ジョージ・ピール（George Peele）やロバート・グリーン（Robert Greene）などの劇作家が候補に挙がっている。

この作品の内容はブリテンの建国にまつわるものである。ちょうど、トロイを落ち延びたアエネアスが神意によってイタリアに赴き、第二のトロイとしてのローマの礎を築いた（とされる）ように、ロークラインの父である王ブルータスが、トロイから一族を引き連れ流浪し、幾多の艱難辛苦に耐えてブリテンの地に至る。この経緯は、劇の始まりにおいて、ブルータス自身によって語られる。

作品の前半では、父の死後、王となったロークラインが、ブリテンにやってきたスキタイ人と戦い、勝利を収め、王権を確立することが描かれる。後半では、妻グウェンドリンを持つロークラインがスキタイ人の女王エストリルドを妾とし、それに反発するグウェンドリンの兄弟が反乱を起こし、結局ロークラインは彼らに倒されることとなる。特筆すべきは、エリザベス朝の観客世界から現れたような、喜劇的な靴直し職人ストランボーである。庶民の場面だけでなく、古代ブリテン王族の主筋場面にも現われ、彼らの誇張した台詞や戦いを相対化する。シェイクスピアのフォールスタッフなどの喜劇的人物を思い起こさせる点でも興味深い。

この作品は、日本でも英米でも注目されることが少なく、日本語訳も我々が知る限りこれまで試みられてこなかった。翻訳にあたっては、1595年出版のテキストを基本とし、必要に応じてそれ以降の版も適宜参照した³。翻訳の作業については、第一幕の下訳を高谷が、第二幕を桑山が作成し、議論を重ねて校訂し、原稿を作成した。ここでは紙幅の関係上、全5幕の内、第1幕と第2幕を掲載し、第3幕以降についてはまた機会を改めて発表する予定である。

3 1595年から現代に至るエディションの比較検討の作業に関して、京都大学大学院人間・環境学研究科、博士後期課程大学院生小嶋ちひろ氏の協力を得た。ここに謝意を表したい。

『ブルータス王の長男ロークラインの
嘆かわしい悲劇』

ブリテン人とフン族との戦い、
フン族の敗走とブリテン人の勝利、
またアルバナクトの死と様々な事件について。
愉しく、しかも有益。

W. S が

確認し、訂正し、新たに準備した。



ロンドン

トマス・クリードによって印刷。

1595 年



『ブルータス王の長男ロークラインの
嘆かわしい悲劇』

ブリテン人とフン族との戦い、

フン族の敗走とブリテン人の勝利、

またアルバナクトの死と様々な事件について。

第 1 幕

第 1 場

（雷鳴と稲光の中、狂気の女神アテイ登場。全身黒装束、片手に燃えさかる松明を持ち、他方の手に血に塗れた剣を持っている。すぐに、熊または他の獣を追いかけてライオン登場。その後、弓を持った狩人が登場し、黙劇でライオンを殺して去る。アテイは留まる。）

アテイ 影法師でさえも、追いかけられ、罰せられる⁴。

森を支配する強力なライオン、
驚くべき力と巨躯を持ち、
恐ろしい音で木々を震わせ、
けたたましい咆哮で大地を揺らした。
森を抜け、逃げ惑う獣を追いかけて、

4 ラテン語 “In poenam sectatur et Vmbra.”

蔭多い木々の中を長く彷徨い、
 現れる愚かな動物を追い立てた。
 すると突然、茨の茂みから、
 矢を番えた恐ろしい狩人が現れ、
 忌まわしい矢でライオンを傷付けた。
 攻撃を受けてライオンは血を流し、
 猛り狂う怒りで心を満たした。
 牙と爪とで威嚇するが、所詮は無駄なこと、
 瞳から炎を燃えさからせるだけ。
 なぜなら鋭い矢が致命傷を与えたからだ。
 世の脅威である勇猛な^{ブルー}獣は、
 かつては脱むだけで敵を震え上がらせたが、
 今や狩人は彼に死をもたらした。
 ああ何事も、至福の安らぎと健かな幸福のうちに
 この地上に長く留まることを許されていないのだ。 （退場）

第2場

（ブルータスが輿に載って、ロークライン、キャンバー、アルバナクト、コリニーウス、グウェンドリン、アサレイカス、デボン、スラシメイカスとともに登場。）

ブルータス 忠実なる諸侯、誠実なる諸君、
 非力な指揮官の私に従い、
 美しきイタリアの岸辺を發ち、
 危険な大海原を渡ってきた忠実な人々よ、
 見よ、お前たちのブルータスは今や終焉に近づいている。
 不本意にもお前たちと別れねばならぬ。
 力は衰え、感覚は麻痺し衰微し、

凍るような寒さが節節を捉えている。
黒く醜い「死」が青白い顔をして、
霞んだ眼の前に、その姿を現し、
まさに死の矢を射ようとしている。
この両腕は、諸侯よ、怖れを知らぬこの両腕は、
幾度も敵の勇気を挫き、
傲慢な近隣諸国の意気を消沈させてきたが、
今や、邪な老齢に押され、死に屈しようとしており、
腕力や生来の力強さはもはや残っていない。
ちょうど年老いてしまった頑健なヒマラヤ杉のように。
レバノン杉の娘たちの中で、
甘き匂いを遠くまで投げかけてはいるのだが。
この心臓は、諸侯よ、恐怖を感じたことがないこの心臓は、
かつては周辺諸国を震えあがらせ、
近隣の王たちにとって憂鬱な神罰ともいうべき存在であったが、
今や公平な死の刃によって、
二つに引き裂かれ、命を奪われようとしている。
まるで稲妻が火の天球から放たれ
天空を通して滑るように落ち、
それに撃たれた聖なる樫の木が
根元まで引き裂かれるかのように。
だから、私はこの敵と闘ってはいるが、それは無益なことなのだ、
ならば、死よ、歓迎だ。これが神の御意思なのだから。

アサレイカス ああ、我が王よ、我々はあなたの苦しみを悲しんでおり、
お体が痛むのを見ることは悲しみの極みです。
しかし運命がどのようなことを定めているのであれ、
それを我々が無効にすることはできません。

イカロスとともに太陽の近くまで飛翔し、
 自分の精神を無きものにしようとする者の出来ることは、
 若いベレロフォン⁵と共に墜落することだけです。
 というのも、運命の三姉妹が我々を
 この地上の肉体から分かとうと定めた時には、
 彼女らの決定に逆らうことは人間には出来ません。
 だから偉大なる王よ、もう方法はないのです、
 悲しみに満ちた嘆きを止める以外には。

コリニュース 閣下は御存知です、我々がどれほど多くの勝利を
 どれほど多くの勝利の記念碑を、
 征服した場所全てにうち立てたかを。
 ギリシアの君主であった好戦的なパンドラスも
 モロッシア人の全ての軍勢も、
 ガリア人の猛将であったゴッファリアスも、
 偉大なるアキテーヌの国々も、
 勝利する我が軍の力を感じ、
 血の代償を払って、我々の騎士道の発露を眼にしたのです。
 太陽の侍女アンコラがどこであれ、
 「昼」の輝かしい後見人である太陽がどこであれ、
 陽気な光を投げかける陽気な太陽がどこであれ、
 光が世界を照らすところがどこであれ、
 トロイ人の栄光は黄金の翼で飛翔するのです。
 その翼は悪意ある嫉妬を超えて天駆け、

5 ギリシア神話の英雄。キメラ（Chimera）を殺害したことは彼の最大の偉業とされる。エウリピデスの同名の作品によれば、ペガサスに乗り天に昇ろうとしてゼウスの雷電に撃たれ墜落し不具になった。

ブルータスとその臣下の名声は
天にまで到達し、空を超えて、
世界の支配者、全能のゼウスの玉座まで到達するのです。
だから、偉大なるブルータスよ、このように嘆かれずに、
絶大なる名声で御自分を慰め、
恐ろしく見える死を、どうか恐れないうください。

ブルータス ああ、コリニーウス、お前は私の心を誤解し、
嘆きの原因を誤解している。
私は避けられぬ死に屈するのを恐れているのではない。
私がそんなことを微塵も考えていないことは神もご存じ。
それより大きな不安が私を骨の髄までも苦しめ、
それを考えただけでも、体が震える、
そしてその原因はお前たち諸侯にあるのだ。

スラシメイカス 最も高貴な王よ、あなたの長引く苦しみを癒すために、
忠実なる臣下にできることがあるのなら、
皆を代表してあなたにお誓いします、
我々はどんなことでも果敢にそれを行うと。
たとえそれが、有毒な喉と三つの首をもつケルベロスが
高い吠え声で亡者たちを脅かしている
暗黒のタルタロスに落ちることであっても、
残忍な大地の内臓を探求して、
大地を引き裂きみましょう。
たとえそれが、イクシオンの大胆な息子とともに
永遠に鋼鉄の鎖に繋がれることになろうとも。

ブルータス ならば、お前たちの王の最後の言葉を聞くがよい、
私はすべてを話そう、
王たる私の心と確固たる決意を。

偉大なゼウスの娘である、金色のヘーベが、
 私の雄々しい頬を若い産毛で覆った時、
 不運なことに私の父は殺害され、
 それで、私と、叔父の年老いたアサレイカスは
 イタリアの地から流浪することとなった。
 それで我々はギリシアの君主、高潔なパンドラスの許に
 身を寄せることを余儀なくされた。
 そこで私はただ一人でお前たちの大義を守り通し、
 お前たちの古来の自由を回復した。
 ギリシアの人々が顔をしかめ、モロツシアの人々が大騒ぎし、
 勇敢なアンティゴヌスが軍隊を連れ、
 天幕を張って、私の軍隊と対峙することもあった。
 また、パンドラスとその属国たちが
 彼らの同盟国の軍勢と共に
 我々の栄光の記憶を汚そうと努め
 トロイ人の名前を地上から抹消しようとしたが、
 私はこの腕で彼を捕虜にし、
 私が出した条項に
 強引に彼らを同意させた。
 そして我々はギリシアから逆巻くヘレスポントを通り、
 レストリゴン⁶の野へとやってきた、
 我らのコリニーウスとともに。
 シシリアの海峡を超えて、
 イリリアの海を通り過ぎ、
 アキテーヌの海岸に到着した。

6 『イーリアス』第10巻116行でも言及される、イタリアの食肉人種。

そこでは、ゴッファリウスと彼の兄弟のガテルスが
野蛮なガリア人の軍隊で、
我が軍に挑んだが、敗北した。
その時私はお前たちのために我がトルヌスを失ったのだ。
トルヌスは短い間に彼の鋭い戦斧で
六百人も兵士を倒したのだが。
そこからアルビオンの岸辺の、
コロスの港へと、我々は安全にやってきた。
そして、アルビオンの血をひく巨人どもと、
その卑しい一群の呪われた指導者、
サモテウスの息子ゴグマゴグを倒し、
遂に私はお前たちをこの島に住ませたのだ。
さあ、私の不拔の努力や、
配慮したこと全て、悲しい傷の全て、
誠実な仕事の全てが、うまく実を結んだかどうか教えてくれ。

コリニュース 勇敢な王よ、私が最初に、あなたの軍勢に従った時、
私は大切な命と血を危険に曝しました、
王者たるあなたの手から恩顧を得るために。
そして同じ理由から、危険な企てや、
様々な争い、騒動の中で、
私は自分の雄々しい勇気を示しました。
あなたの恩顧を得るために、
私はガリアのゴッファリアスの兄弟であるガテルスと戦ったり、
また、私は凶暴なゴグマゴグ、
つまり残忍な軍勢の残忍な隊長と戦ったりしたのです。
そして、これらの功績でコーンウォールの地を賜りました。
まさに、恩義を尊ぶ王から与えられた恩寵の贈り物です。

この贈り物のお返しに、この大切な命と血を、
コリニーウスは善良なブルータス王のために流しましょう。

デボン 友が貴方に誓ったことを、我が王よ、
その同じことを、このデボンも最期まで行いましょう。

ブルータス では、諸侯よ、お前たちの意見は一致し、
ブルータスに従う決意を固めたのだから、
我が息子たちを、この孤児たちを頼んだぞ。
彼らを敵の危険から守ってやってくれ。
ロークラインよ、わが一族の柱にして
わが老いた命の唯一の支え、
ロークラインよ、近くに来るのだ、父の近くに。
そして父の手からお前への最後の祝福を受け取れ。
お前は年長だから、
兄弟を率いる者となり、
老いた父の足跡に倣うのだ。
それはお前を真の名誉の門まで導くだろう。
聖なる美德に従うならば、
月桂樹の王冠という名誉を与えられ、
永遠の名誉という花輪を冠り、
栄光に輝く幸福な人間の仲間入りを果たすだろう。

ロークライン もしもロークラインがあなたの命令に従わないなら、
そして万事において王者として振舞わず、
先祖から受け継がれるべく
残された偉大な栄光を
さらに増大させないのなら、
この身が大海原に投げ込まれるがよい。
また大地の内臓に飲み込まれるがよい。

或いは大いなるゼウスの灼熱の雷電が

私の不敬な頭上に下るがよい。

ブルータス（グウェンドリンの手を取りながら）

お前たちは皆、誰がこの息子の妻に相応しいかと

思いあぐねていることだろう。

だから、ロークラインよ、この贈り物をわが手より受け取れ。

この贈り物はアメリカの大地で発見された

富を産む鉱脈よりも豊か。

お前は、この美しいグウェンドリンを娶るのだ。

彼女はお前のもの。彼女を愛し受け取るのだ。

そうすればお前の叔父も彼女も喜ぶだろう。

コリニーウス 閣下がいかに大きな名誉を私にお与えになったか、

言葉で言い表すことが出来ません。

子の幸せを願う親にとっては

これほどの光栄はございません、

自分たちから生まれた子供が

名誉と繁栄の中に座するのを見ることほど。

グウェンドリン 私のどのような乙女の思いも、

老いた父の意思に逆らうことはありません。

私が従わねばならないお方が、

今、私に、王の血を引くあなたをお与えになったのですから、

最も欲しいと望んでいるものを

わざと強く拒む悪賢い女性のように、

素晴らしいものから遠ざかろうとはいたしません。

ブルータス（ロークラインに向かって。ロークラインは跪く）

さあ、わが息子、お前の役割は舞台の上だ、

王という役を演じなければならないのだから。

（頭に王冠を授ける）

ロックラインよ、立て。王冠を被って、
王の威厳について思いを馳せるのだ、
名誉をもって王冠を被るために。
お前が私の魂を安らかにしようと思い、
またお前自身の安全も切望するように、
私の最後の言葉を大事に思うのなら、
新しく娶った妻を慈しみ愛するがよい。

ロックライン 私が比類なきグウェンドリンを敬わなくなれば、
王の座を楽しむことはなくなるでしょう。

ブルータス キャンバーよ。

キャンバー はい、閣下。

ブルータス わが老齢の身の栄光であり、
母イモジェンの愛しの息子よ、
お前は南部を領土として取るがよい。
お前の血統からは王族が生まれるだろう。
彼らはこの地の栄誉を持ち続け、
手に王笏を持って支配するだろう。

（アルバナクトに向かつて）

それからアルバナクトよ、父の最大の喜びよ、
年は最も若い、心は成熟した息子よ、
騎士道の全き模範よ、
お前は北部を領土として取るがよい。
丘とごつごつした岩ばかりの地域で、
人に馴れない獰猛な獣に満ちているが、
お前の勇猛な気質に相応しい。
我が息子たちよ、終わりのなき幸福を感じながら長寿を全うせよ、

そして兄弟でしっかりと仲良く生きるのだ。
お前たちが敵の武力によりよく耐えるように、
父の最後の謹厳な忠告に従うのだぞ。
ああ、老いの弱さと
若い活力の欠如ゆえに、
病は急速に悪化し、
残酷な「死」が、その速い歩みをさらに速めている、
現世の肉体を私から奪うために。
目が霞み、老いの雲で覆われてきた、
死の苦しみが、痛む節節に広がっている。
それゆえに一層お前たち全員に祝福を贈るぞ。
祝福とともに、この去りゆく魂も贈ろう。
命の砂時計の砂は流れ落ちた。悲しみは全て、
命と共に終わるのだ。「死」が我が瞼を閉じ、
魂が急ぎ飛んでいく、エリュシオンの世界へと。 （死ぬ）

ロークライン 呪われた星よ、忌しく、呪われた星よ、
高貴なる父の命を終わらせるとは！
酷薄な神々よ、あまりに残酷な運命よ、
このようにわが父の運命の糸を切ってしまうとは！
ブルータス、あなたは我々皆にとって栄光であった、
ブルータス、あなたは敵にとって恐怖であった、
ああ、あまりにも早く、悪魔の刃によって、
武勇に優れたブルータスの命の糸は断たれた！
どんな悲嘆も正しきアエアコス⁷を動かすことは出来ないだろう。

7 ゼウスとアイギーナの子。ギリシアの英雄の中で最も敬虔な人物とされる。死後は冥府で亡者を裁いている。

コリニュース どんな恐ろしい脅しも審判者ロドマンスを恐れさせることは出来ないのだ。

あなたは、世界中の恐ろしい怪物たちに勝利した

剛毅なヘラクレスのように力強かった、

あなたは、美しきエウリュディケーの夫⁸のように、

甘く鳴り響くりュートを奏で、

その音色で水をも魅了した。

そして岩を、鳥を、そして獣たちを踊りに導き、

丘の木々にも付いてくるようにと促した。

しかし、あなたは黄泉の国の裁定者を動かすことは出来ず、

冥府の神、陰鬱なブルートの心を同情させることは出来なかった。

死を必ずもたらす死神は全世界を捉えており、

皆、死への道を歩まねばならないのだ。

勇敢なタンタルスは、剛毅なペロプスの父であり

神々の客人であったが不慮の死を遂げた。

アウローラ

曙の夫である老いたティトースも、

公正なゼウスの生け贄となった

厳粛なミノスも死を遂げた。

血に飢えたマルスの鳴り響くラッパ、

野蛮なテシフォーネの恐ろしい怒り、

大海の轟く大波、

これらは憂鬱な「死」の手段であり道具。

だから高貴なあなた方、ブルータスの不幸を嘆くのを止めなさい、

彼が重ねた老齢は死なねばならぬ証なのだ。

8 オルフェウスのこと。死亡した妻を取り戻すために黄泉の国に赴いたオルフェウスの話は、オウィディウスの『変身物語』第10巻で語られている。

さあ我々は敵にとって恐怖であった彼の遺骸を
埋葬し始めねばなるまい。
遺骸を運ぼう、おのおの方、死せる彼を支えてくだされ、
彼は生きている時、トロイの国を支えてくれた。
太鼓を叩きラッパを鳴らすのだ。さあトロイノヴァント⁹へ。
そこで我々の王の埋葬を取り行おう。（一同退場）

第3場

（ガウンを着たストランボーがペンとインクを持って、次のように言いながら登場）

ストランボー 四大元素、七つの惑星、そして南極の他の全てのこれに関わる
星々が俺に敵対しているか、またはそうでなければ、俺は月が欠
けている時に生まれ生まれたということだ。ラクタティウスが鑑
定の書の第4巻で述べているように、それは全てのものがうまく
は行かない時なのだから。ああ、皆さん、ああ、お笑いになるで
しょうが、私の方は泣くことになるんです。あなた方はお喜びに
なるでしょうが、私は悲しむことになるんです。私の可愛く美し
い目、つまり涙の泉から流れる塩の涙は、染物用の桶から流れる
水のようにたっぷりと、或いは豚の頭から流れる赤いワインの血
のように、私の美しくすべすべした頬を伝って流れ落ちます。と
いうのも、本当のことなんです、紳士の皆さん、また我が良き
友よ、それから、その他の方々よ、小さな神、つまり向う見ずな
神キュービッドが、復讐心から彼の矢を私のアキレス腱に射たの
です。それで、立派な言葉で言うと、愛に恋に、そして愛情に、

9 「新しいトロイ」の意。ウェルギリウスの『アエネーイス』で、トロイを落ち延びたアエネアスがラティウムの地に第二のトロイを築くことに倣っている。

私は燃えるだけでなく、燃え上がっているのです。ああ、ストランボーよ、お前は何を見たのだ？ ダイアナが阿呆と一緒にいるところではあるまいな？ ああこの目でしかと彼女を見たのだ、だから目をくり抜いてやるがいい。というのも、目はお前に災いを為すからだ。ああストランボーよ、お前は聞いたか？ ナイチンゲールの鳴き声ではなくて、もっと美しい声をだ。そうだ、この耳でお前は聞いたのだ、だから耳を切り取るがいい、というのも耳はお前に悲しみを引き起こしたのだから。いや、ストランボーよ、お前は死んだ方がよい、溺死した方がよい、首を吊った方がよいだろう、飢え死にした方がよいだろう。ああ、しかしそれでは愛する人を遺して逝くことになる。ああ私の愛する人！

さあ、脳天よ、お前の主人のために力を貸せ！ 彼女に言葉巧みに恋文を書こう。そうしたら、彼女は手紙の美辞麗句を読んで、即座になびいてくれるだろう。

（彼は少し書いてからそれを読む。）

このペン先はもうだめだ、紳士の皆さん、ナイフを貸して下さい。思うに、急ごうと思うと余計に遅くなるのです。

（再び書き、読む。）

「だから、こうなのです、ドロシーさま、あなたはわが魂の唯一の生き甲斐です、つまり私の中で、美しいあなたに対して灯がついた愛情の微かな火花が、今は大きな炎となって燃え上がっており、あなたの秘密の泉の快い水でこの猛烈な火を消してくれなければ、もうすぐに、私の心を燃やし尽くしてしまうでしょう。ああ、私は名声があり評判の良い紳士です、雰囲気は王者のようで、悪くない服を着ていて、歩きぶりは堂々としています。ですから、どうぞあなたの心が、本当に背も高く生命力の漲る若者を蔑むような意地悪なことはしないで下さい。彼を蔑むだけでなく彼を殺

すことにもなりますよ。では、指折り数えて待ちながら、あなたにお別れを申します。あなたの僕^{しもべ}、シニョール・ストランボー。」

ああ、才知よ！　ああ、才能よ！　ああ、記憶よ！　ああ、手よ！　ああ、インクよ！　ああ、紙よ！　さて、これを送ろう。
トロンパートよ、トロンパート！　何て奴だ！　主人が呼ぶ時には、すぐにやって来るものだぞ。トロンパート！

（トロンパート、次の様に言いながら登場。）

トロンパート　只今すぐに、御主人さま。

ストランボー　知っているだろう、我が小姓、お前を召使いにして以来、私がお前にとってどれほどよい主人であったか。

トロンパート　はい、御主人さま。

ストランボー　また私がいつもお前を、まるでお前が我が腰から生まれた果実のように、我が肉体から生まれた肉体のように、我が骨から生まれた骨のように、いかにお前を大切に扱ってきたかも。

トロンパート　はい、御主人さま。

ストランボー　では、お前が信頼できる召使いであることを証明してみせよ、この手紙をドロシーさまの所にお届けし、次のように伝えるのだ――

（彼の耳に囁く。トロンパート退場）

さあ、皆さま方、近々、あなた様方は婚姻をご覧になるでしょう。おっと、ここへ彼女がやって来る。この愛情を伝えないと。

（ドロシーとトロンパート登場）

ドロシー　ストランボーさま、良いところでお会いしました。ここにいるこの男からあなた様のお手紙を受け取りましたが、彼があなた様の苦悩の憐れむべきお話をしましたので、私はあなたの情熱が燃え上がっていると考えて、ここまで急いでやって参りました。

ストランボー ああ、優しい愛おいしいあなた、私の才能の豊穡さはたいしたことはありませんので、私があなたさまのために苦しんだ悲しい嘆き声や途切れ途切れの眠りのことなどお伝えすることは出来ません。つまり、私はあなたのお近づきになりたいと願っております。

あなたの愛は近くに横たわっている、
私の肉体の奥の心臓に
近く間近なところに、
それは私の目が私の鼻に近いように、
脚がズボンに密着するように、
そして肉が肌に接するように。

ドロシー ああ本当に、ストランボーさま、あなたさまは余りにも学識がありになるので、私はあなたさまが何をおっしゃりたいのか、よくわかりません。ですから、どうぞ簡単な言葉でお話しくださって、その分かりにくい謎々はお止め下さい。

ストランボー ああ、ドロシーさま、これは私の巡り合わせ。最も分かっていたきたい時に、全然分かって貰えないのです。だから私の大きな学識は役に立たないのです。でも簡単にお話しいたしますと、ドロシーさま、あなたを愛しております。あなたが私を親しく受け入れていただければよいのですけれど。

ドロシー それが全てでしたら、私の方には不満はありません。

ストランボー そうおっしゃるのですか、愛おいしいあなた！ どうぞ私にあなたのつま先にキスさせてください。ではあなた、さようなら。

（聴衆の方に向きながら）

もしあなたさま方の中で恋しておられる方がおられるなら、私は新しく鑄造された言葉で一杯のバッグをお届けしましょう、そうすれば、すぐにフルーツ・シロップとかその他の甘いものが手に入りますよ。

第4場

（ロークライン、グウェンドリン、キャンバー、アルバナクト、コリニーウス、アサレイカス、デボン、スラシメイカス登場）

ロークライン 叔父上、ならびにブリテンの勇敢な諸侯たちよ、

我々の高貴な父上は埋葬された、

武勇に優れた王に相応しい方法で。

御異存がなければ、今日、私と、愛するこの人と

コンコルディア寺院において

婚姻の儀式を執り行いたい。

スラシメイカス 高貴なる閣下、あなたの臣下は全員、

閣下の命令に従わねばなりません、

特に、閣下が満足なさるように事を進めるべき、

このような場合には。

ロークライン では愉しく宴を開こう。さあ美しきコンコルディア寺院へ。

そこで騎士に相応しい娯楽で日を過ごそう、

夜にはダンスと衣装を凝らした仮面舞踏会だ。

そして笑いの神リーススに我々の娯楽を捧げよう。（一同退場）

第2幕

第1場

（アティが一幕と同じように登場。雷と稲妻の後、次の黙劇が始まる。ペルセウスとアンドロメダが手と手を取り合って登場。剣と楯を持ってケペウスも登場。次に、もう一方のドアから、黒い鎧に身を固めたベネウスと、その後に続いてエチオピア人たちが登場し、ペルセウスを追い出し、アンドロメダを奪う。全員舞台を去った後に、残ったアティが次のように述べる。）

アテイ 神は全てを支配する¹⁰。
 ペルセウスが、ケペウス王の一人娘である
 美しいアンドロメダと結婚した時、
 ケペウス王は王座を強固なものにし、
 王国は永遠に続くかに思われた。
 だが、尊大なベネウスが、
 日に焼けた一群のエチオピア人と共に
 武力で花嫁を奪い、
 喜びを悲しみの洪水に変えてしまった。
 若きロークラインとその愛する人にも同じことが起こるのだ。
 この結婚が幸福をもたらすと思っているが、
 この忌まわしい日は、この呪われた忌まわしい日は、
 彼の苦しみの始まり。
 見よ、ハンバーと、彼が率いるスキタイ人が
 武装した軍勢を従えて近くにやって来る。
 次に起こることを説明する必要はないだろう、
 この戦いで起こる悲劇について。 （退場）

第 2 場

（ハンバー、ハッパ、エストリルド、セガール、兵士たち登場）
 ハンバー 歩みの遅いかタツムリも最後には山の頂に登る、
 あるいは堂々たる城壁を登り上がるのだ。
 水の流れも、滴を落とし続け、最後には
 硬い大理石をも穿つ。
 そのように我々もとうとうアルビオンに到着した。

10 ラテン語 “Regit omnia numen.”

野蛮なダキア人の王も、
勇敢なベルギーの王も
我々がこの島に来ることを阻むことはできなかった。
さて、この島ではフリギアの軍勢が
ポストゥミウスの息子の指揮の許、
堂々たる陣営を張り、
この美しい島で繁栄しようと目論んでいると聞いた。
だが、彼らの愚かな望みを打ち砕いて、
教えてやる、このスキタイの皇帝が、
運命の女神を黄金の鎖で縛り、引っ張って、
意のままに操り、
彼らの王冠で自らを飾るということを。
彼らの三つの国の軍勢と
その弱小な力など気にもせずに。

ハッパ もし美しいラムニスの黄金の門を支配するあの女が
勝利の栄誉を与えてくれるなら、
これまでいつもそうしてくれたのですが、
高潔なる父上、我々はあの土地を支配し、
トパーズの王座に就くことができるでしょう。
そしてロークラインと彼の弟たちは皆思い知るでしょう、
ハンバーとその息子以外は王になれないと。

ハンバー さあ勇気を出すのだ、我が息子よ。運命が味方をし、
高潔な勝利者のみを飾る月桂樹の冠を
我々に差し出してくれるだろう。
だが我が妃エストリルドは、この土地をどう思っている？
この気候を気に入っているか？
優美な目にこの土地は心地良く映っているのではないか？

エストリルド 閣下、この平地は花の女神の富に飾られ

様々な色の花々が広がっており、

心に甘美に訴えかけます。

風の通る丘は、木陰を作る森に覆われ、

森は甘くさえずる鳥に満ちています。

鳥は天上のメロディーを鳴り響かせているのです。

まさにテッサリアの森に匹敵します。

ポイボス¹¹と九人の学識豊かな女性たち¹²が

心地良い音楽を楽しみ、

山の頂から静かに湧く水が、

ささやく流れとなって踊るように山を下り、

水晶のような波で大地に水を注ぐ、あの森のように。

エウロスの優しく謙虚な風が、

シルヴァーヌスの森の葉を揺らし、

テンペ溪谷の楽園と競っています。

これら全てが調和して一つになっているので、

私はこれが幸せに満ちた島だと思います。

ハンバーが勝ち得るなら、さらに幸福な島となるでしょう。

ハッパ 決意が道を作り

勇気が大胆な足取りで続くところには、

運命の女神は決して暴虐を働くことはありません。

なぜなら、勇敢さというものは、

大海の波に抗って立つ岩のようなものだからです。

11 アポロのこと。φοῖβος は「光り輝く」という意味のアポロの形容辞であったが、単独でアポロを指すようになった。

12 九人のミューズを指す。

大波がどこから打ち寄せても、
北風の神ボレアスが激しい嵐でやってきて
恐ろしい叫び声で吹きつけても、
その岩を動かすことはできないのです。

ハンバー 王者のごとき決意だ、お前は父にとっての誉れ。
勇敢なるセガール、お前はどんな不快な知らせを
王たる私の許に持ってきたのだ？

セガール 閣下、ブルータスの末っ子、
勇敢なアルバナクトが何百万もの軍勢を引き連れ
近づいており、夜明けまでに
閣下の軍に破壊的な一撃を加えようとしております。

ハンバー 何百万の軍勢でも連れてくるがよい。
たっぷりともてなしてやろう、
我が敵に相応しいもてなしを。
槍の切っ先で迎え、
剣の刃で体をばらばらにしてやる。
そうだ、たとえ無数の兵でやってきても、
たとえ西の大陸を統べる
強力なバビロンの女王セミラミス
このスキタイの皇帝に立ち向かわせても、
一歩たりとも後退せず、
私が無敵であることがわかるだろう。

ハッパ 最も偉大な王であるゼウスと
天に住む不死の神々にかけて誓います、
朝日が愉しげな顔を見せ、
ルシフェルが馬にまたがり、
黄金の太陽の馬車を運ぶ時、

私は広野で若きアルバナクトに対峙し、
 奴のバーゴネット¹³に槍を打ち付け、
 小僧の力がどれほどのものか試してやります。
 哀れな光景を繰り広げ、
 血を噴き出させてやりましょう。
 きっと小僧の兵士どもは私の力に驚くことでしょう。
 戦闘好きなアマゾンの女王ペンテシレイアが
 槍で武装し、
 まぶしく輝く鋼の半甲冑に身を包み、
 陣地にいる臆病者のギリシア人を叩きのめした時のように。
 ハンバー 勇敢な騎士としての言葉をよくぞ言った、高潔な息子、
 いや、父に喜びをもたらそうとする王子の言葉だ。
 さあ、明日タイタンが輝き始める前に、
 光を運ぶ、はにかみやの曙の女神エオスが
 人間の目から湿った眠りを追い払う前に、
 お前は我が軍の右翼を率いるのだ。
 左翼はセガールの指揮とし、
 後衛は私が指揮する。
 愛らしく、美しく、優美なエストリルドよ、
 この一戦で運命が私に味方したら、
 お前は美しいアルビオンの女王となるだろう。
 いやきっと、運命は私に味方し、
 お前を美しいアルビオンの女王にするだろう。
 さあ行こう。行って兵士を奮い起こし、
 我が勇猛なる軍勢に装備させるのだ。

13 面頬の付いた軽装のかぶと

彼らが我が国の防壁となり、
私の願う喜びを完全に実現するために。 （一同退場）

第3場

（ストランボー、ドロシー、トロンパート、歌いつつ靴の修繕をしながら登場。）

トロンパート 靴直しの暮らしは嬉しいな。

皆 ダン、ダン、ダン、ダン。

ストランボー どんな嫉妬や争いからも自由。

皆 ダン、ディドル、ダン。

ドロシー 極めて気楽。仕事はわずか。

皆 ダン、ダン、ダン、ダン。

ストランボー だけど儲けは大きいぞ。

皆 ダン、ディドル、ダン。

ドロシー なんて素敵。仕事の腕があるからこそ。

皆 ダン、ダン、ダン、ダン。

トロンパート どんな職業も比較にならない。

皆 ダン、ディドル、ダン。

ドロシー 楽しい娯楽と、喜び溢れるお祭り気分。

皆 ダン、ダン、ダン、ダン。

ストランボー 最も幸せなのは、俺たち靴直し。

皆 ダン、ディドル、ダン。

トロンパート コップはうまいエール・ビールでいっぱいだ。

皆 ダン、ダン、ダン、ダン。

ストランボー 俺たちの店は失敗しない。

皆 ダン、ディドル、ダン。

ドロシー これは今日のお肉、私たちの食事。

皆 ダン、ダン、ダン、ダン。

トロンパート これで俺たち、嬉しい気分。

皆 ダン、ディドル、ダン。

ストランボー こうして俺たち、仲間で働く。

皆 ダン、ダン、ダン、ダン。

ドロシー 愉しく樽から、エールを注ぐ。

皆 ダン、ディドル、ダン。

トロンパート 夫に乾杯しろよ、ドロシー。

皆 ダン、ダン、ダン、ダン。

ドロシー それじゃあ、私のストランボー、あんたに乾杯。

皆 ダン、ディドル、ダン。

ストランボー 残りを一気に飲んじゃえ、トロンパート。

皆 ダン、ダン、ダン、ダン。

ドロシー なくなったら、またコップを満たそう。

皆 ダン、ディドル、ダン。

隊長 貧しさとは、悩みから最も遠いということなのだ。

奴はいかに愉しげなことか。

だが、徴兵から逃れられないとわかったら、

楽しい調子を変えて、別の歌を歌うことになるだろう。

やあ、こんにちは、靴直しの主人。

ストランボー ようこそ、紳士さん。何の用かな？ 古い靴か、編み上げサンダルかな？ 或いは靴底に鋌でも打ち直しましょうか？ ケイスネス¹⁴にいるどんな靴直しよりもうまく直しますよ。

隊長 （徴兵の前払い金を見せながら）靴直しの主人、ちょっと誤解されているようだ。これがわかりませんか？ 買いに来たのは靴ではなくて、あなた自身。さあ来るのです、王の大義の兵士とし

14 スコットランド北東の地域。

て。

ストランボー ちょっと待って下さい、あなたの王様には人の意に反して徴兵できる権利があるのですか？ ちょっと信じられないですよ。王から委任状でも受け取っているのですか？

隊長 いや、それはどうでもいいのだ、委任状など必要ない。さあ、よく聞くのだ、「我々の王のアルバナクトの名の下、命令する、明日ケイスネスの町役場に出頭するように。」

ストランボー ナクタバル王？ 神さま御慈悲を！ 私らが彼に何の関係が、彼が私らに何の関係があるので¹⁵？ 去勢オンドリ閣下殿、その紙の剣をお抜きなさい、さもないと言っておきますが、棍棒で肩に一撃お見舞いして、もっと武器を持って来ないといけないって思い知らせますよ。

隊長 お願いだ、落ち着いてくれ、私は王の命令を実行しているだけなのだ。

ストランボー じゃあ帳簿から私を外してくれ。

隊長 それは私にはできない。

ストランボー （官杖をとりあげ）じゃあ来い、お前にどこまで度胸があるかな？ ゴグの巨人の青いフードと聖域にかけて、一戦交えてやる。
（両者、戦う）

（スラシメイカス登場）

スラシメイカス おい、なんと騒々しいことか、ひどい騒ぎだな。

私の隊長と靴直しの主人が激しく戦っているのか？

おい君たち、なぜ戦っている？

隊長 大したことではありません。前払い金を受け取ろうとしないので

15 原文は、“What have we to do with him, or he with us?”. *Hamlet* の第2 四つ折り版の “What’s Hecuba to him, or he to her?” (2.2) を彷彿とする。

す。

スラシメイカス さあ、お前、俺の命令でこれを受け取れ、
絞首刑になりたいのなら別だがな。

ストランボー 閣下、本当に金には困っていないのです。もしお許しいただければ、これを貧しい仲間の一人に渡したく思います。

スラシメイカス そんなことはどうでもよい。明日、町役場に来るのだ。

（スラシメイカスと隊長退場）

ストランボー ああ、馬鹿なことをした！ 妻よ、もし黙っていたなら、俺は徴兵されなかった。なんと悲しい。ただどさあ行こう、もう何も言うな、俺たちは戦争に行かねばならないのだから。

（一同退場）

第 4 場

（アルバナクト、デボン、スラシメイカス、貴族たち登場。）

アルバナクト 勇敢な騎兵たち、オールバニーの諸侯よ、
かつて君たちの鋭い刃は、今や亡くなった父と共に、
素晴らしいギリシアの辺境を通り、
敵の生血に浸ってきた。
そして今、再び示す時が来たのだ、その意志の強さを。
その誇り高い心と、決意を示す時が。
今、絶好の機会が差し出されているのだ、
これまでいつもアルバナクトに示してきた
勇気と、強い熱意を試す機会が。
まさに今、そうだ、まさに今この時、
スキタイから来た荒々しい放浪者どもが
暴動を起こし、さまざまな場所を苦しめている。
だが覚えておいてくれ、諸侯よ、

私はごろつきの逃亡者を罰することを決して止めない、
全ての川を奴らの血で染め、
彼らが決定的に破滅したことを示すまでは。

デボン きっと閣下は名声を勝ち得、
お父上の栄光を繰り返されるでしょう。

アルバナクト 教えてくれスラシメイカスよ、お前は平野を通ってきたのか？
お前はそこで臆病者の放浪者どもが、
風雨に打たれた兵隊を鼓舞しているのを見たか？
奴らはどのように布陣していた？

スラシメイカス カレドニアの森を通った後、
川がささやくような静かな流れで滑り進むところに、
我々は、スキタイ人の軍営を見ました。
そこには兵士が溢れ、武具が蓄えられ、
勇敢な騎士たちが
広原で馬を引き連れていました。
ハンバーとハッパは紺青の武具に身を包み、
雪のように白い軍馬に跨り、
花咲き乱れる、心地よい平原を見回っていました。
ギリシア人をシモイス川の畔から追い払った
ブリアモスの美しい息子ヘクトールとトロイロスでさえも、
あの二人の騎士とは比較にならなかったでしょう。

アルバナクト お前はじつに雄弁に語った、
ハンバーとその息子の姿を、
ポリクラテスのように幸運な二人の姿を。
だが我々の征服する剣から奴らを逃してはいけない。
奴らが語ることになるのは、我々がかけてやる情けなのだ。
(ストランボーとトロンパート登場、「野火と干し草、野火と干

し草」などと叫びながら。）

スラシメイカス 何だ、お前たちは！ この様に騒ぎ

叫んで、この壮麗たる宮廷で何がしたいのだ？

ストランボー 野火と干し草、野火と干し草。

スラシメイカス 悪党め、騒ぐのはなぜだ？

ストランボー 野火と干し草、野火と干し草。（などなど）

スラシメイカス 悪党め、なぜ騒ぐのか言え、

さもないと、この槍でお前のはらわたをえぐりだすぞ。

アルバナクト お前たちの家はどこだ？ どこの者だ？

ストランボー 家だって？ ハハハ！ 一月と一日、奴を笑ってやれ！ 家

だって！ ああ神よ！ ああ、あんたは、私らのような誠実で貧しい男が、この宮殿に住いやらを持っていると思うのですか？

ハハハ！ あんたは、ひどい指揮官のようだから、我々の状態をひとつ教えてあげましょう。

頭先从つま先まで。

頭から靴まで。

始まりから終わりまで。

家を建ててから燃やすまで。

この正直者と私は、町はずれに素敵な小屋を持っていました、メルクリウスの寺院のすぐそばに。そこに、ステン人とかスキタイ人とかいう奴らの兵隊がやってきて、村を全て焼き払ってしまったんです。残ったのは灰だけ、女房達の洗濯用に。でも一番悲しいのは、愛しい妻が、ああ何と酷な争い、妻が、ひどい炎に焼かれてしまったことです。

だから、お固い隊長、

我々はずっと嘆きます。

あなたが家を建て直す

治療法を探してくれぬ限り、
今や塵となった、あの家を。

（二人叫ぶ）

野火と干し草、野火と干し草。

アルバナクト よし、この非道な行いは正さねばならないし、
奴らの憎き頭上に復讐の一撃を加えねばなるまい。
善良な君たちには、焼け落ちた家の代わりに
黄金を与えよう。
宮廷の門の傍に君たちの家を建てるのだ。

ストランボー 門だって！ そんなバカな！ よりにもよってあなたの後部な
んですか？ 門！ こりゃ困ったもんだ。門！ ああ、神の御慈
悲を！ 王様、聞いて下さい。あなたが我々みたいな貧しい人間
を満足させようとしているなら、タバーン川のほとりに家を建て
て下さいな。

アルバナクト では、そのようにしよう。

ストランボー タバーン川の近く、よし！ マリア様に誓って、閣下、まさに
善き人としてよくぞおっしゃいました。よく聞いてください、
我々の家が建って、近所をうろうろされることがありましたら、
最高のワインを2パイントほど差し上げます。（退場）

アルバナクト 諸侯よ、私は実に悲しく思うのだ、私の善良な臣下の財産が
こんな風にスキタイ人に台無しにされていることを。
スキタイ人は、知っての通り、すばっしこい略奪者たちと、
やって来た先々で、住民を傷つけている。
罪深いハンバーめ、お前に後悔させてやる、
ケイスネスに来たことを。 （一同退場）

第5場

（ハンバー、ハッパ、セガール、トラシアー、および兵士たち登場）

ハンバー　ハッパよ、我が馬に乗り、
この作戦に必要なだけ多くの
槍騎兵と軽装備の騎士を連れて
カレドニアの森に潜め。
戦いが激しくなったら、彼らと
森の潜みから抜け出して、
トロイ軍の背後を突くのだ。
この作戦が騎士道とうまく合わされば、
きっと勝利するだろう。

（ハッパ退場。アルバナクトと道化たち登場）

アルバナクト　卑しいフン族、大胆な奴め、
この地方の偉大なる指揮官、
この戦士アルバナクトを一度でも脅かそうとは。
しかし、この性急さを死で償わせてやろう。
大胆な企みを後悔する時は既に手遅れだ。
死をもたらすこの武器で、
これまで敵の血に浸ってきた
この剣で、お前の首を胴体から切り離し、
血を激しく流させてやる。

ストランボー　いや、偉大なるストランボーの武器である、この杖を使って、
お前のおつむを叩き割ってやる、この卑しいスキタイ人め。

ハンバー　私はお前の脅しなどには応えまい、青二才め、
お前の愚かしい傲慢さなども恐れはしない。
言葉を垂れ流す舌よりも自慢の刃を
うまく扱わないと、

おしゃべりブリテン人よ、あまりに早く
ハンバーとスキタイ人の力を思い知ることになるぞ。
（両者戦う。ハンバーとその兵士たち走って退場）

ストランボー おお怖、おお怖。 （退場）

第6場

（戦いの音。ハンバーと兵士たち登場。）

ハンバー 若きブリテン人アルバナクトは、
何と立派に戦いの雷を投げつけ、
恐ろしい勢いで数限りない兵士を倒し、
大部隊を地上で展開して、
全ての争いに、栄光ある勝利を遂げた。
死体の丘を積み重ね、星々きらめく空への距離を測るかのようだ。
まるで巨人ブリアレオスが百の手で、
百の山々を偉大なるゼウスに投げつけた時のように。
恐ろしい巨人モニクスが、
オリンポス山を軍神マルスの楯に投げつけ、
巨大な杉の木をミネルヴァの楯に投げつけた時のように。
いかに傲慢な面持ちで
逃げまどう私の軍を彼が見おろし、その堂々たる顔を
怖れる我々に見せつけたことか。
まるで遠くで荒れ狂う海を見るかのようだった、
恐ろしい音を立て、怖ろしい山のようになねり、
船隊を何千もの波で打ち付けて、
テニスボールのように放り投げる、あの海のようなようだった。
（戦いの音）

ああ、ハッバが襲われたのではないか、心配だ。 （退場）

第 7 場

（もう一度、戦いの音。アルバナクト、スラシメイカス、兵士たち登場。）

アルバナクト 兵士たちよ、続け、アルバナクトに続くのだ。

戦場から逃げるスキタイ人を追うのだ。

どのスキタイ人も逃がすではないぞ、

ブリテン人の力が、震えるフン族の力を全て集めた力よりも

さらに強いということを知らしめるのだ。

スラシメイカス 進め、勇敢な兵士たち、進め！ 追撃を続けよ。

ハンバーかその息子を捕虜にした者は

金貨を褒美にやるぞ。

（戦いの音、両軍戦う。ハンバーは退却し、ハッバがブリテン軍の背後から登場し、デボンを殺す。ストランボーが倒れ、アルバナクトが走って退場し、傷を受けて再び登場）

アルバナクト 残酷な運命め、お前はこうやって私の邪魔をするのか。

勝利の朝に、

至福の絶頂において、

酷い破滅によって、こんな風に命を断ち切るのか！

お前の憎しみを表す時は他になかったのか、

威厳の春であるこの時以外に。

お前の毒を吐きだす場所は他になかったのか、

若きアルバナクトの体以外に。

さっきまで敵を脅かし、

恥ずべき退却に追いやった、この私が、

矛が乱立する危険の中で

ライオンのように振る舞っていた、この私が、

この世から去らねばならないのか。最も嘆かわしいことに、

ハンバーの策謀と運命の憎しみによって殺されて。

運命の女神の色香など呪われてしまえ、彼女の呪われた色香など、
男たちの気まぐれな心を騙す色香など。

男たちは信じてしまうのだ、

決して上から下へと回ることを止めない移り気な運命の車輪を。

ああ、神よ、天よ、場所を与えてくれ、

運命の女神の憎き住み処を見つけることができる場所を！

そのためならアルプス山脈を越え、水の豊かなメロエまで行こう。

炎のような太陽神ポイボスが

エメラルドで車輪を飾った馬車に乗り、

熱い熱を、そう、焦げるような熱を投げつけ、

フローラの色とりどりの芝生を駄目にしてしまうメロエまでも。

コーカサスの山をも越えよう、

三つの化け物の姿を持つ残酷なキメラが、

恐ろしい口から熱い炎を繰り出し、

その喉から出てくるもので獣を恐れさせるコーカサスの山をも。

凍てつく地域にも行こう、

進む船の進路を氷片で止めてしまう氷が、

氷結する海の中で山脈のように横たわる地域にも。

そこで私が運命の女神の憎き家を見つければ、

その手から移り気な車輪を奪い、

永遠に切れない鎖で彼女を縛ってやる。

しかし、こんな脅しはまったく無駄なのだ。

今日の戦いに私は敗れ、フン族は征服者。

デボンも部下の兵士たちも殺された。

速い流れが血とともに激しく流れていく。

ああ、この最後の夜が長く続けばいいのだが、

この傷が回復する見込みはない以上、

ハンバーに王冠を渡さねばなるまい。

ストランボー 神さま、どうか我々に御慈悲を。皆さん、これは聖なる日だ。

どいつもこいつも野原で眠って横になっているぞ。しかし、神さまも御存知の通り、まったく意志に反してですがね。

スラシメイカス 逃げるのです、高潔なアルバナクト、生き延びるのです。

スキタイ人は素早く追ってくるから、

逃げる以外に道はありません、さもないと即座に殺されますよ。

逃げるのです、高潔なるアルバナクト、生き延びるのです。

（スラシメイカス退場、戦いの音。）

アルバナクト いや、死を恐れる者だけが逃げればよい、

破滅の死神の名を聞いて震える者だけが。

傲慢なハンバーに大言壮語で誇らせるわけにはいかぬ、

若きアルバナクトを逃げ惑わせたなどと。

私の死によって勝利を味わせさせてはいけないのだ。

この剣に主人の命を奪わせよう、

幾度も主人の危うげな命を救ってくれたこの剣に。

しかし、ああ、兄たちよ、もし私のことを大切に思うのなら、

奴の頭上に復讐の一撃を与えてくれ。

厳格な支配権で地獄の聖林を支配している

暗い地獄の王宮に棲むお前たちよ、

暗い天の女王である夜よ、凶暴な復讐の女神よ、

全ての神々よ、女神たちよ、王アルバナクトを受け入れてくれ、

黄泉の川の流れに、また荒涼たる沼地に受け入れてくれ、

今や運命が私を呼んでいる。この胸に剣を刺そう¹⁶。

16 長短短調六歩格の韻律のラテン語。“Et vos queis domus est nigrantis regia ditis, / Qui regitis rigido stigos moderamine lucos: / Nox caeci regina poli, furialis Erinnis, /

（自分を刺す）

（トロンパート登場）

トロンパート ああ、この人は何をやっちゃったんだ。鼻から血が出てる。しかし何か変だぞ。あそこに御主人さまが倒れている。御主人さま、御主人さま。

ストランボー 頼むからそっとしておいてくれ、俺は死んでるんだ。

トロンパート だけど、一言だけ、御主人さま。

ストランボー シャベらんぞ。なぜって死んでるからだ、言っとくが。

トロンパート じゃあ、御主人さまは死んでしまったのか？ ああ、棒と石のように、れんがと骨のように、命がなくなったのか？ で、御主人さまは死んでしまったのか。ああ、森に住むコカトリスよ、おしゃべり女よ、イバラよ、料理人よ、店番よ、肉屋よ、ここに来て、吠え、わめくのだ。吠え、金切り声をあげ、嘆き、泣きながら、ここに来て嘆くのだ、クロイドンの石炭運び、ロイドンの農夫よ、ケントの漁師よ。なぜなら、靴直しのストランボーが、ケイスネスの町の、あの楽しい靴直しが、まさにこの戦いで、まさに今、この大地で斃れたのだ。ああ御主人さま、泥棒、泥棒、泥棒。

ストランボー 奴らはどこだ？ こんちくしょうめ。起こしてくれ。さあもう行こう、そうでないと直に略奪に合ってしまう。（二人退場）

第8場

（ハンバー、ハッパ、セガール、トラシアー、エストリルド、兵士たち登場）

ハンバー こんな風に、怒れる軍神マルスの恐ろしい衝撃から

“Dii que deaeque omnes, Albanum tollite regem, / Tollite flumineis undis rigidaque palude. / Nunc me fata vocant, hoc condam pectore ferrum.”

雷のような鐘、クロウメモドキの太鼓の音から離れて、
 喜ばしい勝利を上げて、我々はここまで退いてきた。
 殺されたトロイ人たちは、血の中に浸かっていて、
 その死体で空気を汚し、
 腹をすかした鳥たちの餌になっている。

エストリルド 私たちの敵はそんな風に滅べばいいのです。

ハンバーの安寧を望まない人間は滅べばいいのです。

強力なゼウスよ、世界の支配者ゼウスよ、
 不実な企みから私の愛する人を守りたまえ。

ハンバー ありがとう、愛おしいエストリルドよ、私の魂の慰めよ、
 勇敢なハッパ、オールバニーの人間に示された、
 お前の騎士道精神を祝って、
 花をあしらった月桂樹の冠を、
 お前の威勢の良さの報酬として与えよう。

（月桂樹の冠をハッパの頭に置く。）

ハッパ 高潔なる父上、予期せぬ、この名誉の印は、
 私の勇気に、より勇敢な行いへと拍車をかけ、
 どんな困難な偉業をも成し遂げさせることでしょう、
 全世界にハッパの名前を称えさせるような偉業を。

ハンバー さて、勇敢な兵士たちよ、この素晴らしい成功を祝して、
 神々の美酒よりも甘い
 アマゾンのワインを心ゆくまで飲み、
 疲れた心を吹き飛ばすがよい、
 セメレイウスの贈り物で飾った杯を使って。
 さあ、シャンパーニュの平原にまで澄み切った水で流れ、
 その水で緑の草原を潤す
 アビス川の銀の流れにまで進軍しよう。

鐘とトランペットを鳴らせ、楽しげに高らかに鳴らすのだ、
喜びと勝利を持って帰還するのだから。 （全員退場）

〈第 3 幕へと続く〉